



認め合う・支え合う環境づくりへ・・・1年間の取り組みを「つなぐ」大池中学校の人権学習！ 日常生活にこそ人権学習の積み重ねがある。

3年生が広島での修学旅行から「いのちの大切さを学んだ平和資料館・原爆ドーム」、学年ごとの人権学習、1・2年生全員で取り組んだ人権作文、県地区・三重地区での人権集会・人権フェスタ、性の多様性を考える講演会、1年生が母校に出向き取り組んだ人権フォーラム等、大池中学校には1年間で人権に関わる多くの「学びの場」がありました。このような取り組みや学びを積み重ねてきたみなさんは、『認め合う・支え合う環境づくり・学校づくり』をすすめる大切な1人として、これからはつなげてほしいと思います。そして、新1年生の大切な後輩とともに、明日も来たいと思える学校を作っていくためにも・・・。

【校長先生が思う人権学習とは・・・】 人権学習は「教師が教える」とか「何としてでも子どもたちに教え込む」ものではなく、クラスや学年、そして全校のみなさんと私たち教職員が一緒に人権について考え、自分自身の人権感覚を磨いていきたいと思って、人権学習に取り組んでいます。クラスのみならず体育祭の全員リレーの走順を考えたり、合唱曲をみんなで創り上げるための話し合いをしたり・・・居心地の良いクラスになるために話し合ったり。みんなが人のことを考えて大切にします。このような日常生活の積み重ねが人権学習につながっていくのだと思います。

【校長先生は、人権学習を学び続ける必要があると思う。その2つの理由は？】

- ① 大池中学校のみなさんを、「差別の加担者(かたんしゃ)」にさせないため。
- ② 「日々の生活の中にこそ人権学習の積み重ねがある」ということ。
(具体的には、校長先生はこう考えます)

2年生で取り組んできた「部落問題学習」というのは、『見えにくい差別』です。自分が正しく知ろうと思わなければ、いつの間にか、誰かを傷つけてしまったり、差別に加担(かたん)したりしてしまっていることがある。「そんなことは頭ではわかっているけど」・・・いざ、差別やいじめを見てしまったり、その場に居合わせたりしたら、「行動ができない人」、「声をあげることができない人」にはなってほしくない。隣でしんどい思いをしている仲間や、苦しい思いをしている友だちをそのままにせず、優しい声かけができたり、優しく寄り添って生きていこうとする大池中学校の子どもたちであってほしいと願っています。

2年生の人権学習の授業の中で、「実際の差別があった場では行動を起こしたり、声に出せなかったりするかもしれない」という感想もありました。しかし、その行動が起こせなかったり、声に出せない時間にも、みなさんの周りには「いま、しんどい思いをしていたり、つらく苦しい思いをしている仲間や友だちがいる」かもしれません。あなたに「助けてもらいたいと願う人がいる」かもしれません。あなたに「救ってもらいたいと願う人がいる」かもしれません。その場で優しく寄り添ってあげられるのは「あなただけ」かもしれません。差別は見えにくいからこそ、見抜く・見抜ける力が必要なのです。だから部落問題学習をはじめ、人権学習に取り組むのだと思います。だからこそ、令和8年度の『大池中学校の経営方針』を以下のように考えました。

かかわることを通して、一人一人の人権が大切にされる「仲間づくり」を柱として、子どもたちを常に真ん中に置いて、子どもたちを大切にしたい心の通う教育活動をすすめる。

このような学校経営方針の具現化を進めるための重点として、「認め合う・支え合う環境づくりへ つなぐ」があります。大池中学校がすすめる人権学習は、『クラスのみならず、学年のみならず一緒に考えて、磨いていこう・・・。』このような気持ちを大切にして、これからも人権学習を積み重ねていきます！

【子どもたちの活躍の場 「日々の人権学習の積み重ねの成果」】

① 四日市市人権作文『入選作品』2年2組 ○○ ○○○ さんが選ばれました！

「『普通』ってなんだろう」 大池中学校 ○○ ○○○

「普通」ってなんだろう。私たちは普段から何気なく「普通」という言葉を使っています。

「普通はこう考えるよ」や「普通はこうするよね」というのも聞いたことがあります。でも、そもそも「普通」とはどんなもの

なのか、人によっては傷付くのではないかと思いました。

私の友達の話です。その子は左利きでした。多くの人は右利きなので、ハサミなどの文房具や調理器具などはだいたい右利き用でつくられています。でもその子にとっては不便に思うようです。例えば、ノートにメモをするときは、縦書きより横書きで書くことが多いので、文章を書いていくと文字がくすんでしまったり、ハサミを使うときは切りにくくて、断面が小汚くなってしまいます。また、その子が一番困ってそうにしていたものは、給食のとき、うどんやサラダが出たときに使う、つめがついている「おたま」でした。つめは右利きの人を使いやすい向きに付いているので、その子が給食当番になったときに、そのおたまを使うと、麺や具がすくいづらくて、給食を食べ始めるのが遅くなってみんなに申し訳ないと思ったことがよくあったそうです。



～ 中 略 ～

何気なく使っている物や環境は「普通」の人のためにできています。だけど、「普通」は一通りじゃないと思います。右利きや左利きの人がいる、人によって「普通」の形は違います。この違いから、困ってしまう人がいるのだと思いました。



私が小学校低学年くらいの頃、ものすごく牛乳が苦手でした。みんなは「普通」に飲んでいるのに、それが飲めない私は嫌だったのでがんばって飲んでいました。今になっては、私のお気に入りの言葉である『三十人無限色』だと思っています。『三十人無限色』とは、私が小学生の頃の先生が考えてくれた言葉で、学級目標でした。私は「十人十色とほほ同じやん」と思い、なんでこの言葉にしたのか興味深かったので、先生に聞きました。「三十人いれば、三十通りどころか無限の個性があふれでてきて、一人に無限の色があって、さらにその人だけの色もたくさんあるってこと。クラス全員が自分らしくいてくれたらいいなって思ってね」と言いました。私は気に入ってしまい、忘れられない言葉になりました。

「普通」という言葉は多くの人がそう思う、感じることを目指すことが多いけど、だからといって少数派の考えを否定したり、決めつけるのは違うと思います。例えば、グループでなにか遊びとかするとき、意見がわかれてしまっても、多数決ですぐ決めるのではなく少数派の意見も聞き入れて話し合えるようにしたいし、してほしいと思っています。また、グループの中には、物事においてできる人と苦手だったり、できない人もいます。だけど、できない人が悪くて「普通じゃない」ということではなくて、経験してきた道の種類が違うだけだと思います。みんなが違う個性だからこそ、そのことを理解して、助け合えることができるのです。

私は「普通」という言葉が、だれかににとって不愉快な気持ちにならないようにするには、「普通はこうだよ」ではなくて、「新しいアイデアだね」や「その考えは少ないかもしれない」、「普通にして」ではなくて、「動き回らないで」や「落ちついて」という相手を否定しないようにしたり、具体的に言いかえられるようにするのが大事だと思います。無意識に相手を傷つけてしまうことがあるかもしれないけど、差別的な言葉を言わないように、普段から気を付けていきたいです。

【 ○○ ○○○ さんに人権作文に込めた思いや、人権学習で学んだことなどを聴きました 】

人権作文には、「普通」っていう言葉の意味について自分自身が考え直す機会になりました。「みんな違って当たり前」という言葉があるように、その違いは一人一人の個性であったり、その人の持つ色であったり、その人が持っている自分らしく生きる権利だとも思います。2年生で学んだ「部落問題学習」では、差別を受けてきた歴史が過去のことではなく、「いま」も続いている差別の事実だとも思いました。このことを自分事として考えることができたり、クラスのこととして考えることができてよかったと思いました。

1年生

「障がいのある人への理解を深める学習」と「人権作文」
【内容】

- ・「人権マップ」についての交流
→日常にある色々な問題などについての理解が深まった
- ・マークの意味について見て予想した
- ・ろう者の方の講演会 普段の生活や手話などを教わった
→障害のある方の考え方、思いが知れた
- ・人権作文
→人権作文を書くを通して、学習したことや自分の経験をまとめる事が出来た

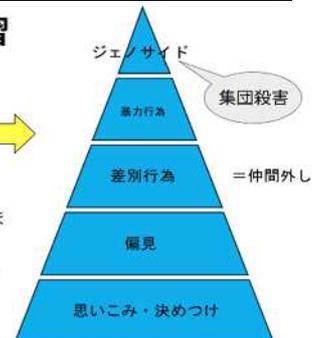
2年生 部落問題学習

7月の人権アンケートより

- ・差別は絶対にしてはダメだと思った。
- ・一番やってはいけないと思う。

差別の構造

- ・思い込み、決めつけから差別は生まれる
- ・自分は差別しないと思っていても、無意識のうちに差別する側に回っていることも...



☆ 私たちができること ☆

人権問題に関心を持ち、互いを尊重し認め合うこと
みんなが安心して過ごせる学校をつくる!!